

「志高く奉仕の心」

会長 柳 清二



THE WEEKLY REPORT

2012~2013

TAKIKAWA ROTARY CLUB

本日は 第2815回 例会

プログラム

コスモスマラソンのエピソード

No. 2649 3月28日(木)

次週以降の予定

4月4日(木) 会員卓話

4月11日(木) 次年度委員会

4月18日(木) 卓話

第2814回 例会報告

2013年 3月21日(木)

会長挨拶・報告



「春の小川はさらさら行くよ」

国文学者、高野辰之氏の作詞で1912年、尋常小学校4年用の教科書に載った唱歌であり、誰もが口ずさんだ歌であります。もとの歌詞は「さらさら流る」だったが、後に文部省が「さらさら行くよ」に改めたこと記されています。春の光にも似て心安らかな嬉しさを伝えている歌で、もう100年を超えて唄われています。

先週の挨拶の中で、この雪や寒さも彼岸までとお話しましたが、彼岸中日でもこの吹雪、本州は桜吹雪と風の便りですが、「真冬日が」続く奇妙な「温暖化」と詠った人、「まだ春へ バトン渡せぬ 冬の意地」と詠った人の先見の目には恐れ入りました。昨日、空知川の橋の上から川の流れを見ていましたら、ゆく川の流ればさらさらには程遠く、ドクドクと流れていました。早く春の光を手で掴みたいと願っています。

ロータリーの友3月号に《日本人のこころと平和》と題して、静岡県立大学の本田悦郎教授が「今世界は多極化の時代です。日本の平和を守り、世界の平和に積極的に貢献していく為に、まず歴史・伝統・文化を深く理解して強い精神と、自分の頭で何をしたらよいか、日本国民として何をすべきか、国家と文明を担う叡智と勇氣・誇りをもって次の時代を生き抜く未来の人々へ、国家を愛する精神を伝える必要性が私達には義務付けられているのではないのでしょうか。それこそが「奉仕を通じて平和を」の精神である。」とお話されています。

本日の卓話「日本文化の歴史の発展について」ですが、縄文人の文化、弥生文化、そして「土偶」この粘土製の素焼きの人形が大抵は女性の姿をしているように見えますが、これは単なる女性像なのか、興味津々、楽しみにお聴きしたいと思います。

幹事報告



①先週ご案内しました春の全国交通安全街頭啓発の追加日程をお知らせ致します。

・ 4月8日(月) 7時50分～8時30分まで
北洋銀行前国道12号線沿い

・ 4月10日(水) 12時～12時15分まで
滝川市役所前国道38号線沿い

・ 4月12日(金) 17時15分～17時45分まで
建設協会前国道38号線沿い

ご都合のつく方は、ご参加をお願い致します。

② 4月4日(木)は第16回定例理事会を開催致します。役員・理事の方は予定に入れて下さい。

先週のプログラム

SAA担当例会

会員卓話



三品 優次 副SAA

今日の講師は、SAAの宮崎英彰氏であります。宮崎氏はライフワークとして色々な研究をなさっております。代表的なものは「邪馬台国はどこにあったのか?」とか「出雲大社はなぜ滅ぼされなかったのか?」とか「宇宙人はいるのか?」などで、宮崎氏がこのような研究をしていることを知っている人は少なく、知らない人は全く知らない一面をもっています。本日は、最近の研究で宮崎さんが驚いたことを研究成果として聞いて頂きます。発表後には皆様方の宮崎氏を見る目が変わると思いますので、ご清聴をよろしくお願いします。

『土偶と縄文人とアイヌ』



宮崎 英彰 SAA委員長

なぜ遮光器土偶に興味を持ったのかという、いかにも宇宙人のようで、小学校の時に初めて見た時は、絶対に宇宙人だと決めつけていました。その後、このゴーグルのような遮光器は遮光器ではなく目を強調したものであることが分かりました。実に芸術的な作品であることが伝えられています。左足がないのは呪術あるいは祈祷に用いられたようで、左足を痛めた女性の身代わりに作られ足をもがれたと言われています。



遮光器土偶



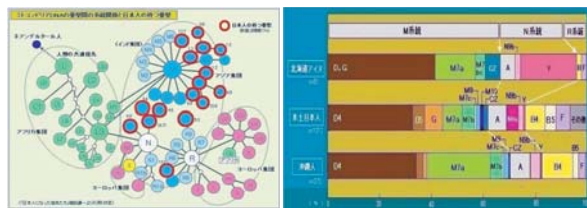
中空土偶

中空土偶は愛称をカックウと言って、1975年に旧南芽部町(現函館市)、著保内野遺跡付近の畑から耕作していた主婦によって発見され、1979年に国指定重要文化財になりました。中空土偶は縄文後期に作られ遮光器土偶は縄文晩期に作られたと言われているので、中空土偶の方が早い時代に作られたこととなります。遮光器土偶は土の塊ですので、使用目的が全く違うものだということができます。縄文時代

の土偶はほとんど全て破壊された形で出土しており、しかも同じ地点で出た破片を組み合わせても完成品は復元できません。故意に破壊し、さらに破片をバラバラに散らしていた可能性が大きいように見えます。何故そのような手間のかかることをしていたのかというと、縄文人がハイヌヴェレ型作物起源神話を持っていたからではないかと考えられております。「古事記」に現れる女神はオオゲツヒメ、「日本書紀」の女神はウケモチが主役になります。大切な客神の接待に体中からご馳走を出しているところを客に見られ殺されてしまう食物の女神の物語です。この神は、死んだ後でその体から五穀や桑蚕牛馬を生み出し、人間に与える役目を負っています。すなわち五穀栽培、農業の守護神です。生を捧げて豊年を願う儀礼は古くからあり、動物の犠牲や人身御供などの血なまぐさい習慣も世界各地で行われていました。この儀式の基になったのがハイヌヴェレ型神話です。身を殺して作物を与えてくださった神への信仰が、生を殺すことで、生は神と同等の力を授かり、豊かな実りを約束してくださる、と考えられたのでしょう。縄文人は神への捧げものとして人に似せて土偶を作りました。それを破壊して栽培地に蒔いたり埋めたりすることにより、穀物の再生を祈願したのです。

時代は変わりまして660年前後のことです。この阿倍比羅夫が活躍していた時代では、弓矢の矢羽根の自慢話が貴族の沢だったようです。猛禽類、大鷲の幼鳥の尾羽が一番美しく貴重品とされており、阿倍比羅夫は蝦夷討伐のため北海道に行き松前に上陸した時、大鷲の幼鳥の尾羽と仏具のリンを交換するバーター貿易をアイヌとやっていました。アイヌは、大鷲の幼鳥を求めてオホーツクやサハリンまで行きました。しかし、そこにはトビニタイ人やオホーツク人がいて大鷲の取り合いとなりました。アイヌは阿倍比羅夫に頼みオホーツク人を討ち払ってもらいましたが、その後13世紀に入ると、オホーツク人がモンゴル帝国のチグリスハーンに頼みアイヌ討伐を企てました。(アイヌ・オホーツク人40年戦争)物の本によるとオホーツク人が勝ったと記述されていますが、アイヌ人が生存しているオホーツク人は絶滅したようです。

続いて非常に難しい話をしますが、近年DNAの鑑定技術が進みました。日本人は無意識のうちに自らを単一民族だと考えがちですが、DNAの観点からみると多様な人々の集まりだといえます。アフリカのL3亜型集団から派生したM系統とN系統のグループが出アフリカを執行し、M系統のグループはアジア地区だけで繁栄、N系統のグループは分岐を繰り返しながらアジアからヨーロッパまで(ユーラシア大陸)全体で繁栄しています。



ミトコンドリアDNAの亜型

系統図

昔は誤ってアイヌはコーカソイドではないかといわれたこともあったが、東アジア最大のミトコンドリアDNA亜型(D亜型、G亜型)を高頻度で保持することは、紛れもないモンゴロイドの集団であることを示しています。またM7aが多く含まれているのは北海道アイヌと沖縄人に共通しており、かつてアイヌの祖先は東日本縄文人として中部地方まで分布していた時代があり、随分南の方の影響を受けていたことが分かっています。北海道アイヌのミトコンドリアDNA亜型割合の特徴はYとなっておりますが、本土日本人や沖縄人にはわずかしが認められません。Y亜型の分布は北東シベリア、特に沿海州の先住民に限られているが、最近オホーツク文化を担った人たちがY亜型を保持していたことが確かめられました。すなわち、オホーツク文化の名残がアイヌの血液中にしっかりと残っていたということです。

今日の"あっと驚く結論"ですが、渡来系弥生人・本土日本人・関東縄文人はD・G亜型は持っていますがY亜型は持っていません。(関東縄文人にはほんの少量あり)つまり、Y亜型はオホーツク人のDNAだといわれています。ということはつまり、"アイヌ人は縄文人とオホーツク人のあいのこ"だったのです。これには私はビックリ、衝撃を受けました。

木曜フォーラム

3月21日 午後6時 (場所: ほおずき)



ニコニコBOX

柳 清二会員

原日本人の縄文時代のお話し、大変楽しく聞かせていただきました。

三品 優次会員

担当例会で講師紹介をさせていただいて。

松岡 高志会員

「匠の技とふれあう日」を無事終えて。ロータリーの協賛ありがとうございました。

宮崎 英彰会員

担当例会を終えて！

会長/柳 清二
幹事/川原 弘嗣
編集/クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30

例会場●ホテルスエヒロ

事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16

TEL (0125) 22-3344

FAX (0125) 24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。